

平成 28 年度 橋梁における低 V O C 塗装塗膜性能追跡調査の詳細結果について

1 調査概要

低 V O C 塗装を実施した橋梁において、塗膜の光沢、膨れ、さび等の経年劣化について、調査を実施しています。

2 調査結果（胡桃橋）

調査項目（調査方法）	結果
調査年月日	平成 28 年 11 月 1 日
塗膜劣化の評価（全体）	膨れ（JIS K5600-8-2） 0（なし） さび（JIS K5600-8-3） Ri0（さびの面積 0%） 割れ（JIS K5600-8-4） 0（10 倍に拡大しても視感できない） ※ただし、ボルト頭周辺など厚く塗装されがちな箇所では、塗膜の『割れ』はみられた。 はがれ（JIS K5600-8-5） 0（はがれの面積 0%） ※ただし、ボルト頭周辺など厚く塗装されがちな箇所では、塗膜の『はがれ』はみられた。
視覚特性	鏡面光沢度（JIS K5600-4-7） 一定の光沢度を保持 （水洗した塗膜は、いずれの部位も初期と比較すると光沢保持率は低下しているが、その傾向は緩やかで急激な変化は認められない。）
付着性	塗膜の付着性（JIS K5400 8.5.3） 付着性は良好 （①旧塗膜と塗替え塗膜との層間剥離なし、②塗替え塗膜内の剥離なし）
全体評価	調査開始 11 年目で、一部では『割れ』や『はがれ』が増えているため、長期的な維持管理を考えると、今期中の塗替え塗装は良い時期と考えられる。 ・塗替えの際の不十分な素地調整が原因と考えられる旧塗膜と、塗替え塗膜との層間剥離が数か所で確認された。 ・下層塗膜が十分に乾燥されないまま厚めに塗り重ねてしまっていることが原因と考えられる『割れ』や『はがれ』が確認された。



調査地点の様子

